

令和元年6月13日現在

機関番号：36301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K17251

研究課題名（和文）医師の年次有給休暇未取得問題

研究課題名（英文）State of annual paid leave-Doctors' working conditions

研究代表者

井草 剛 (IGUSA, GO)

松山大学・経済学部・准教授

研究者番号：80723692

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：年休の実態が社会関係を反映することに着目し、医師の年休取得行動について研究を行った。具体的には、年休に関して優れた研究を生み出してきた量的なアプローチと、「当事者の論理」を把握することで、病院経営者視点の年休管理、年休の運用パターン（年休取得の類型化と年休取得日数の関係）、という2点について、明らかにした。そして以上の成果や到達点と結びつけて医師の年休取得促進策を提示した。

*論文数：3

*学会発表数：4

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年は医師の労働を対象とした社会科学的な研究があるものの僅かであり、医師の年休取得や労働時間に焦点をあてた社会学的な研究となるとほとんど見られない。このように日本では医学の領域に踏み込んだ社会学的研究は少なく、医師の年休を扱った既存の調査も僅かである。つまり、本研究により、医師の年休取得率を改善し、医師の偏在を是正することができれば、良質で安全な医療の確保の一助となり、医学医療の進歩を牽引する役割を社会学が果たすことになる。

また、これにより、日本の社会学において、医学を「周辺領域」から「身辺領域」に一步近づけることになる。

研究成果の概要（英文）：I researched doctors' acquisition of yearly paid vacation, focusing on how the actual state of paid vacation reflects societal relationships. Specifically, through using a quantitative approach which has produced excellent results and by understanding the logic of the parties involved, we were able to clarify two points: (1) how paid vacation is managed from the perspective of hospital administrators, and (2) patterns of how paid vacation is acquired (reason for acquiring paid vacation and number of days acquired). I then presented a policy to promote increased acquisition of paid vacation which connected the above results with our end goals.

*Number of articles: 3

*Number of conference presentations: 4

研究分野：労働社会学・経済統計

キーワード：医師労働 医師の年休取得行動 医師の偏在 年次有給休暇

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国における医師数の絶対的不足・偏在は、次第に医師の労働時間を増加させ、時間外勤務・日当直の増加、無休暇など、労働基準法から明らかに逸脱していたが、医師は職業倫理・使命感から当然のこととして受け止めてきた。しかし、医師の無休暇は、医師の健康への悪影響はもとより、業務遂行能力を低下させ、医療事故を誘因することが、多くの研究で示されている。

全国医師ユニオンと日本医労連の発表によると、後期研修医の18.9%、常勤医の7.3%が、厚生労働省の過労死認定基準が目安とする「月80時間の時間外労働」を超えており、時間外労働は平均で月61.8時間に上る。さらにエムスリーの発表によれば、男性では80.3%、女性でも72.3%の医師が当直明けの日も通常の勤務をしており、多くの医師が慢性疲労を訴えている。また、労働政策研究・研修機構の調査結果によると、年休を1年間に1日も取っていない者の割合が、医師では一般労働者に比べ2倍近くになっている。これらは、応募者が2015年に実施した医師の年休調査でも改善傾向は見られない。上記の一連のデータは近未来の医療崩壊を示唆している可能性があり、労働時間を規制する、休暇を取得しやすくするなどの労働環境の改善が急がれる。医師の「労働環境で改善してほしいこと」の1位が、「完全休日を増やす」であったことから急務であることが分かる。

さらに、医師の働き方などについて話し合う厚生労働省の検討会が強調したのが、医師の偏在問題への対応である。救急患者のたらい回しや地域医療を支える病院などの閉鎖・縮小に直結するため、国民にとっても放置できない問題である。たとえば、都道府県別の10万人あたりの医師数をみると、京都府が最多で、最少の埼玉県の2倍であるなど、地域差が大きい。これに対し報告書では全国1万6千人の医師への実態調査をもとに、44%の医師が地方勤務の意思があると指摘した。一方で想定通り医師の地方勤務が進まない理由として、極端に少ない休日や長時間勤務といった「過重労働」と「希望する仕事ができない」という2点を挙げた。そのうえで「支障が除かれれば、地方に従事する可能性が多く秘められている」と強調している。

2. 研究の目的

本研究の目的は、医師の年休取得率を改善して医師の偏在を是正するために、年休取得に必要な合理的な交替制勤務のモデルシステム等の立案と最適労働時間の算出にある。

3. 研究の方法

(1) 医師の年休取得について、これまでの応募者の質的研究の成果や到達点と結びつけて大規模アンケート調査を企画、実施した。この大規模アンケート調査の分析から、年休取得に影響を与える要因を明らかにし、その要因と年休取得日数との相関関係、因果関係の有無、さらにはどのような因果関係が成立しているのかについて、共分散構造分析などを用いて推計した。これにより、医師社会の特異性からなる年休未取得の複雑な構造を明らかにした。

(2) 年休取得促進策を提示するにあたっては、労働時間の柔軟性の向上に成功しており、高い年休取得率を誇る、質的調査対象の病院(タイ/サミティヴェート病院など)の事例を参考にした。

4. 研究成果

(1) 医師の年休の未取得問題に焦点をあて、なぜ年休を取得できない(しない)のか、その要因を解明した。その結果、医師の年休の未取得の要因は、一般労働者を対象とした従来の年休研究で明らかにされているものとは別に、医局支配などによる医師社会の特異性もあることを明らかにした。

(2) 病院経営者の視座から医師の年休の未取得問題に焦点をあて、その要因について分析を行った。その結果、「緊迫する経営状況から起こる代替要員不足」や「医師の倫理」といった要因が抽出された。

(3) 医師の年休取得日数と診療科の関係を焦点とし、病院、診療所に勤務する医師を母集団に、調査会社の持つマスターサンプルを標本抽出枠とした無作為抽出によるアンケート調査を実施した(サンプルサイズ:800)。その結果、出身校に勤務する医師と外科系診療科の医師の年休取得日数が明らかに少ないことがわかった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3 件)

2019年 松大論集第31巻第1号 印刷中 『中小企業が生き残るためには何が必要か：年休取得なども含めた内部経営資源(内部要因)の統計分析』(査読無)

竹田英司(松山短期大学) 井草剛(松山大学)

2018年12月 松大論集第30巻第5-2号 41-58 『State of annual paid leave - Doctors' working conditions』(査読無)

井草剛(松山大学)

2018年6月 Journal of Education and Training Studies 6(8) 171-181 『Matsuyama University's Statistical Studies (Using Annual Paid Vacation Research as the Basis for Student Development) Through the Use of a Student's Graduation Thesis Results』(査読有)

井草 剛(松山大学)

〔学会発表〕(計 4 件)

①2018年8月 1st Economic, Law, Education and Humanities International Conference 2018 『State of annual paid leave: Doctors' working conditions』

井草 剛(松山大学) 水野勝之(明治大学) 安田俊一(松山大学) 竹田英司(松山短期大学) 市川虎彦(松山大学)

2018年6月 第56回産業学会全国研究会 『企業が生き残るためには何が必要か：労働環境(年休取得など)も含めた経済分析』

竹田英司(松山短期大学) 井草 剛(松山大学)

2017年9月 第91回日本社会学会大会 『医師の個人属性と年休取得の因果関係に関する考察』

井草 剛(松山大学) 水野勝之(明治大学) 竹田英司(松山短期大学)

2017年6月 第65回関東社会学会大会 『医師社会の特異性からなる年休未取得の構造』

井草 剛(松山大学) 水野勝之(明治大学)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：